

学校評価アンケート集計結果

「担当」
教頭 古藤忠男

保護者アンケート			肯定的回答の割合(%)		児童アンケート	
96.2	92.3%	学校は、子どもたちが行くのを楽しいと言える学校になっている。	1	学校へ行くのは楽しい。	97.4%	92.3
96	96.2%	学校は、児童の興味・関心を大切にし、学習意欲を高める取組をしている。	2	学校の勉強はよく分かる。	89.5%	89.5
96	100.0%	学校は、読み・書き・計算などの基礎的・基本的な学力が身に付くように指導している。	3	毎日、家で(学年×10分以上)の勉強をしている。	86.5%	84.2
83.3	96.0%	学校は、児童が主体的に学習に取り組む姿勢を育てるために、家庭学習の習慣化を図る取組をしている。	4	みどりの道や地域にでかけたり、地域の人から教えてもらったりする活動は楽しい。	100.0%	94.7
100	100.0%	学校は、みどりの道や地域の素材を活用したり、地域の人から学んだりする活動を取り入れ、ふるさとを愛する子どもの育成に努めている。	5	学校図書館を使って勉強することは楽しい。	100.0%	89.7
92.3	96.2%	学校は、学校図書館を活用した授業や、子どもたちが家庭でもすすんで読書をするような取組を行っている。	6	学校や家ですすんで読書をしている。	89.5%	84.6
85.7	96.0%	学校は、人権を尊重する意識を育てる取組を進め、思いやりの心を育て、温かい人間関係づくりに努めている。	7	だれにでも優しくするようにしている。	89.5%	92.1
85.7	75.0%	学校は、教育相談やアンケート調査などにより実態把握に努め、適切に子どもの相談にのったり、指導したりしている。	8	困ったことがあったとき、気軽に先生に相談できる。	84.2%	64.1
87	96.0%	学校は、道徳や社会のルールを守ろうとする意識やマナーの向上を図る取組を進めている。	9	学校のきまりを守り、安全に生活しようとしている。	94.9%	94.9
88	84.0%	学校は、子どもたちが元気のよいあいさつや返事ができるように取り組んでいる。	10	すすんで元気のよいあいさつや返事をするようにしている。	100.0%	97.4
			11	給食当番や、そうじの仕事をすすんでしている。	97.4%	97.4
87.5	92.0%	学校は、子どもたちの体力向上を図る取組を行っている。	12	やる気まんまんタイムでたくさん走ったり、休み時間などにしっかりと体を動かして遊んだりしている。	94.9%	89.5
100	100.0%	学校は、「早寝・早起き・朝ご飯」など、よい生活習慣の定着を図る取組を進めている。	13	「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけている。	92.1%	94.9
92.3	96.2%	学校は、テレビやゲームなどメディアとの付き合い方を子どもたちが意識できるような取組を行っている。	14	テレビを見たりゲームをしたりする時間が多くならないように気をつけている。	79.5%	79.5
96	84.6%	学校は、災害や不審者への対応や交通安全の指導など、子どもの安全を守る取組をしている。	15	地震や火事が起きた時や、不審者に出あった時にどうしたらよいか知っている。	94.7%	92.1
96	100.0%	学校は、課外活動(陸上・水泳・体操・音楽会等)を通して、体力向上や音楽による表現力の育成をめざした取組をしている。	16			
91.3	91.7%	学校は、施設・設備の整備や掲示物等の学習環境整備に努めている。	17			
85.7	79.2%	学校は、いじめ防止や生活安全など、生徒指導上の課題への対応を迅速に行っている。	19			
96	96.2%	学校は、たよりや授業公開日等の開催により、学校の様子が分かるように、保護者や地域に情報を発信している。	20			
100	96.0%	学校は、PTA人権研修や人権教育に関する公開授業、校内人権週間など、人権課題・同和問題の理解と解決に向けての取組を進めている。	21			
100	100.0%	学校は、保護者や地域の声を大切にし、地域や社会の諸活動に積極的にかかわり、地域に開かれた学校づくりを推進している。	22			

十二月には、保護者の皆さんに「学校評価アンケート」にご協力をいただき、ありがとうございました。今回は、その「学校評価アンケート」と児童が十二月に行った「学校生活アンケート」の集計結果をまとめたものをお知らせします。

上のグラフにその結果をまとめています。数字は肯定的回答の割合（「とてもそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の選択肢のうち、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合）をパーセントで表したものです。また、質問項目①～⑮については、児童と保護者の関連のある質問項目として並べて表示しています。⑯～⑳ は保護者のみの質問項目です。

児童アンケート、保護者アンケートともに、昨年度よりも肯定的回答の割合は高くなっており、九割を超える項目も多くありました。概ね八割を超え、特に緊急に対策を講じるべき事柄はないと考えます、少しでも十割に近づけるよう教職員一丸となって教育活動に取り組んで参ります。結果から、本校の強み、弱みについて紹介します。

児童と教職員の人間関係づくり

項目⑧については、一昨年度、昨年度と第一の改善点として挙げていました。児童については昨年度よりも二十％肯定的回答が増えたという結果でした。大変、喜ばしい結果であり、子どもたちにとつて、気軽に相談できる学校・教職員になってきていると感じます。継続して取り組んでいきたいと考えています。反面、保護者のアンケート結果は、約十％肯定的回答が低下し、昨年度十％増加しているのも、もともと戻ったということになります。一学期、二学期とＱＵアンケートを実施し、にこにこアンケートを学期に一回行い、教職員の誰とでも相談できるようにしたり、スクールカウンセラーと相談できるようにするなど取組を進めています。教育相談やアンケート調査等の結果を学級だよりや学校のたより等で積極的に伝えていきたいと思っています。

家庭学習の習慣化とメディア接触から

項目③については、保護者の肯定的回答は約十三％、児童の肯定的回答は二％増加という結果でした。「チャレンジたかやま」や県学力調査の結果からも、各学年に応じた家庭での学習習慣化が図られていると感じます。特に、県学力調査（高学年）では、二時間以上学習している児童の割合も高い傾向が見られました。県項目⑭については、保護者と児童の意識の違いが見られました。県学力調査では、「一日あたりのテレビ・ゲーム・スマホ等の使用時間」が四時間以上という子が数名ありました。三中学校区の子どもを育てる会の部会での話し合いで、「学年、学校を越えてゲームをしている。」といった意見もあり、来年度は各家庭の利用制限（フィルタリング）等、親子で同じアンケート実施し、より良いメディアとの付き合い方について発信できたらと思っています。

元氣アッププロジェクトでお世話になった石田さんが、本校に四回指導に来られましたが、そのたびに「元氣をもらう。」と話され、先日は、薬剤師の山崎さんが、「癒される。」と言われ、学校にいつも来て、指導してくださる廣山さんが「学校に行くのが楽しくて仕方がない。」と微笑まれ、魅力いっぱいの子どもの良さが外部の方に伝わっています。子どもたちが自信满满で、いろんなことにチャレンジできるよう、我々大人が子どもたちにボイスシャワー（勇気づけの言葉づけ）をもっと増やせば、高山小のファンを更に増やしたいと思っています。

今回のアンケートの結果は、教職員の学校評価と合わせて、後日行われる学校関係者評価委員会での次年度に向けた取組の方向性を決める際の資料として活用します。

保護者⑩の設問「学校は、子どもたちが進んでそうじや当番活動を行えるように取り組んでいる。」については、昨年度にアンケートで、学校での様子が分かりにくいので評価するのが難しいというご意見が多くあり、昨年度の項目からは削除していたようです。今年度は、そのことがわからず、アンケートをしておりました。申し訳ありません。来年度からは削除したいと思っています。